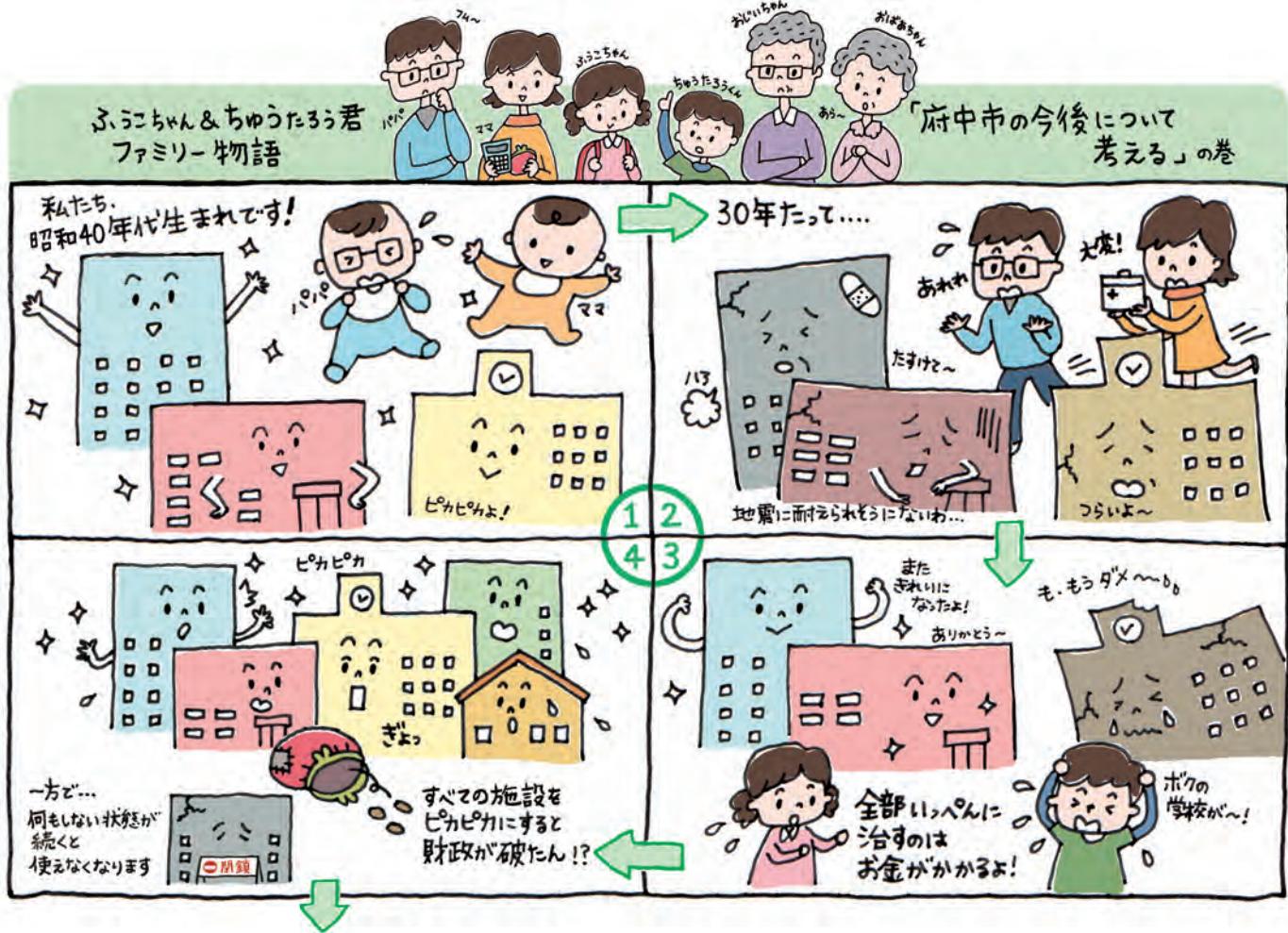


公共施設の危機を乗り越えるために ～公共施設マネジメントの取組～

▶ 身近な公共施設が、将来は同じように使えなくなるかもしれません… ◀

人口増加が急激に進んだ昭和 40～50 年代前半にかけて、多くの公共施設は、集中的に建設されました。施設は年々老朽化が進みます。近い将来には、これら施設の改修や建て替えといった「施設の更新」が必要となるタイミングが一斉にやってくるのです。



このままでは、
現在の公共施設をすべて維持することができません！

建物が老朽化すると、改修工事や建て替え工事が必要になります。これまでに経験したことのない規模の「施設の更新」が重なることにより、膨大な費用が必要となります。一方、社会情勢の変化や少子高齢化の進行に伴い福祉関係の費用も今後増加することから、財源が不足し、維持することができなくなる施設も出てくることが考えられます。

まずは、公共施設を取り巻く現状と課題を整理して、
このような危機への解決策を検討します。

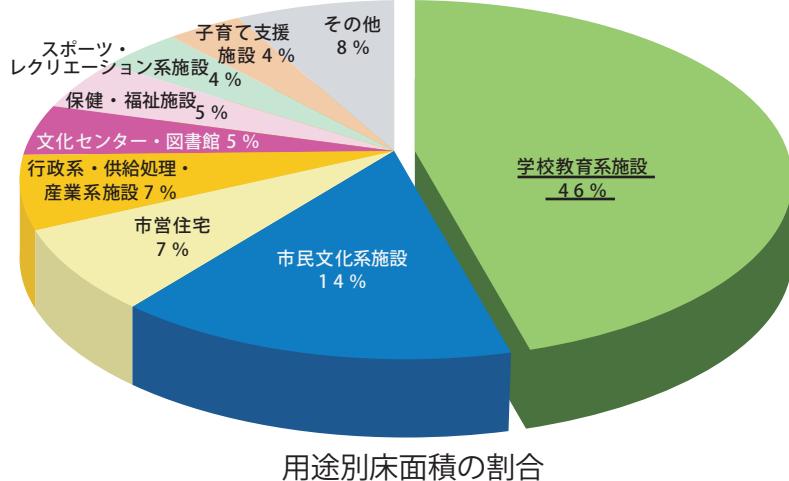
実際に見ていきましょう！



公共施設を取り巻く現状と課題



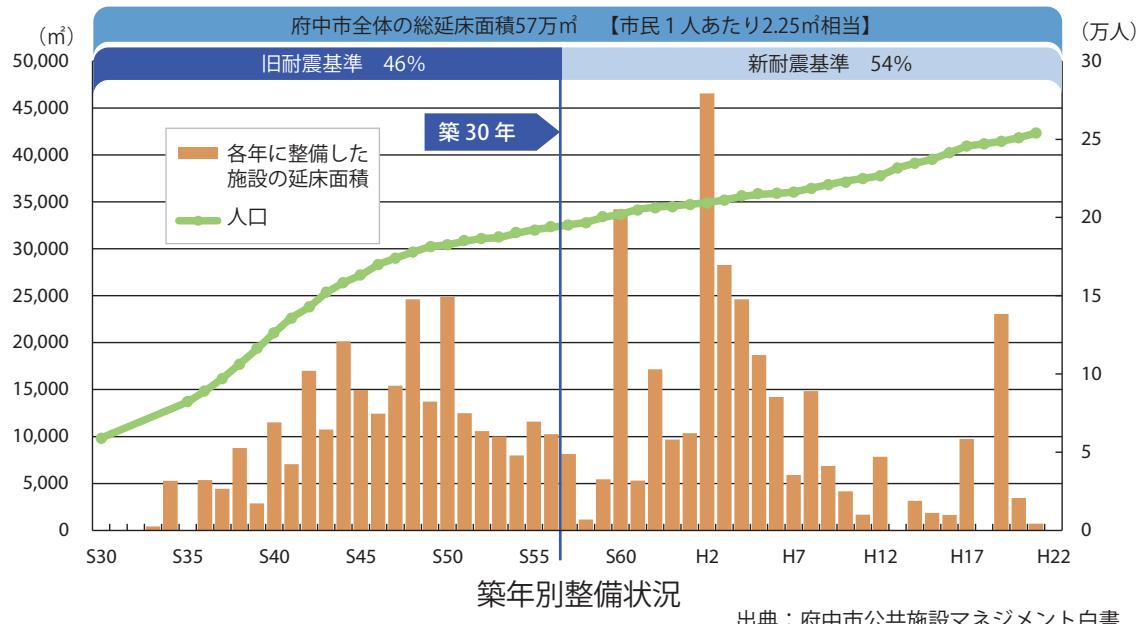
公共施設について



▶ 学校は全ての公共施設の約半分を占めています。次に多いのは、ホール等の市民文化施設です。



▶ 昭和 56 年以前、旧耐震基準で建設された施設は約 26 万 m²で、全体の 46% を占めますが、耐震工事に優先的に取り組んだ結果、ほとんどの施設が耐震性能を有する建物となっています。一方、これらの施設は築 30 年以上が経過しており、老朽化対策が必要となる時期を迎えています。



施設のまとめ

- ✓ 府中市の公共施設は、人口増加が急速に進んだ昭和 40 ~ 50 年代前半にかけて建設されたものが多く、建物の安全性の確保、大規模改修、建替え等に今後、膨大なコストがかかることが予測されます。

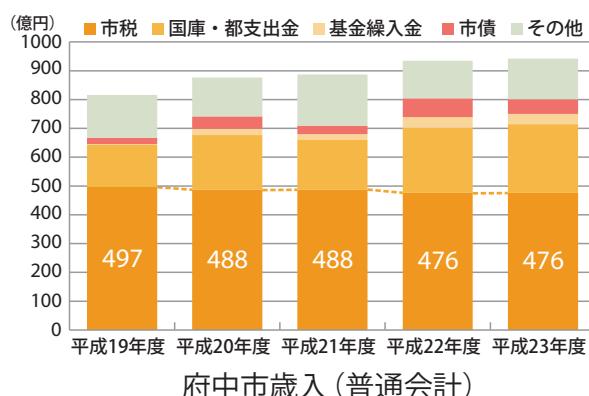


財政について

府中市の財政状況はどうなっている？

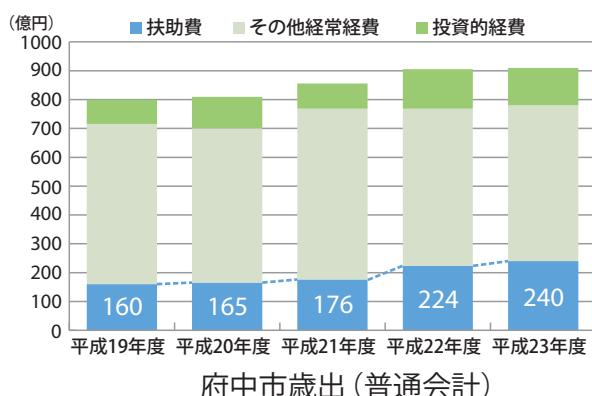
歳入
について

平成 20 年の世界同時不況以降、市税収入は減少傾向にあります。今後の経済状況や少子高齢化の進展などにより、更なる減少が見込まれます。



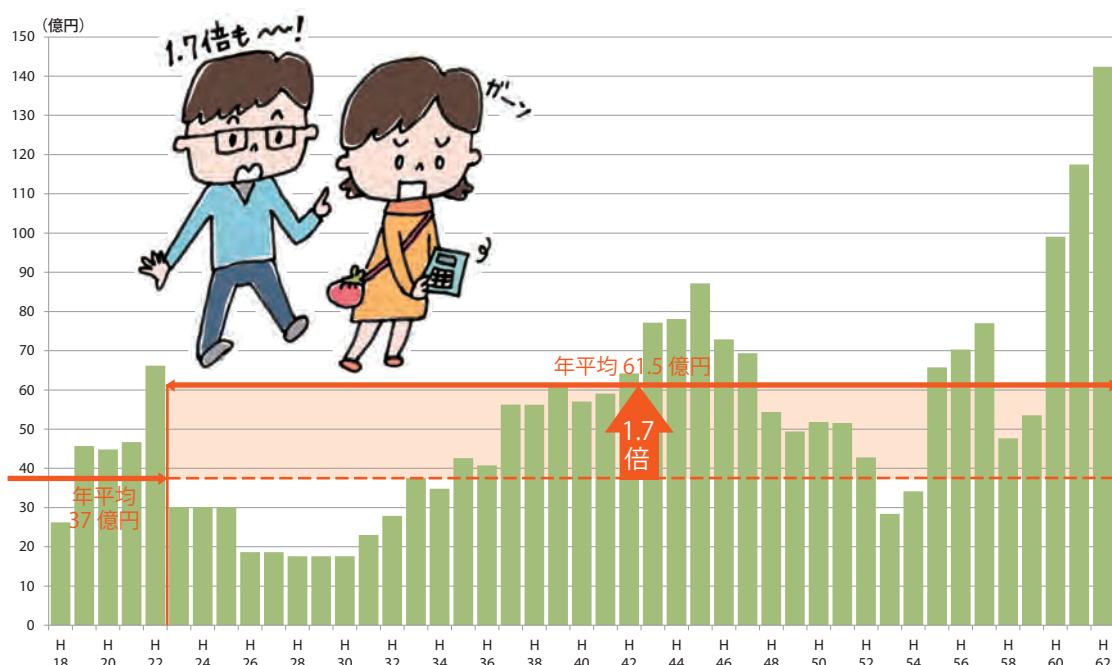
歳出
について

歳出は増加傾向で、特に扶助費（医療費や手当、生活保護等）は平成 19 年度から平成 23 年度までの 5 年間に、約 80 億円増加しています。急激に増加する扶助費に対応するため、投資的経費（建設事業にかかる経費）を抑制せざるを得ません。



維持更新
コスト

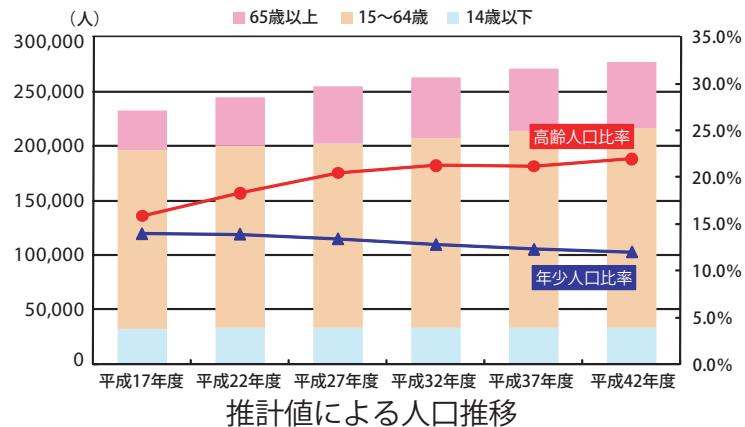
今後 40 年間の維持更新にかかるコストは、老朽化対策などで年平均 61.5 億円必要となることが見込まれます。これは、近年の建設事業にかかる経費の年平均（37 億円）の約 1.7 倍にあたります。



出典：府中市公共施設マネジメント基本方針



推計では、高齢者の人口が増加することが見込まれます。財政面では、このことに伴う各種手当や医療費などの増加により、扶助費が平成42年までに約40億円増加することが見込まれます。一方、15歳以上64歳未満の生産年齢人口の増加は見込まれるもの、人口全体に占める割合は減少します。



出典：府中市公共施設マネジメント白書

財政のまとめ

- ✓ 健全な財政状況を維持するためには、公共施設の維持更新にかかるコストを抑制する必要があり、すべての施設の建て替え・改修を行うことは困難です。
- ✓ 仮に、すべての施設を維持するためには、少子高齢化の影響や公共施設の維持更新にかかるコストなどを加味すると、将来的には年平均で約47億円の財源不足が見込まれます。

すべての公共施設をそのまま維持していくことは、借金を増やし、市の財政が破たんすることにつながります。費用がないために施設の老朽化に対応しないことは、問題を先送りし、いずれ施設が使えなくなることにつながります。



公共施設の危機への解決策「公共施設マネジメント」

公共施設を「マネジメントする」という考え方

公共施設を取り巻く現状と課題の把握を通じて、以下のようなこともわかりました。

- ① 府中市は、近隣の自治体と比較して、多くの公共施設を持っている
- ② 利用者が多い施設と少ない施設がある
- ③ 施設を設置した当時に想定した市民ニーズと、現在、また将来想定されるニーズは、人口や社会状況の変化により異なってくる。

そこで、これまでと同じ目的、利用方法、管理方法で施設を維持するのではなく、市民のニーズに合致するように公共施設の用途を変更したり、将来を見通した上で、施設の維持更新にかかる費用を削減できるように工夫することなどが必要であり、市では、公共施設の危機に取り組む基本的な考え方を取りまとめた「公共施設マネジメント基本方針」を策定しました。

「公共施設マネジメント」にどう取り組む？

市民共有の財産である公共施設を将来の市民に引き継いでいくため、

3つの視点により、公共施設にかかる費用とサービスの最適化に取り組みます。

視点 その1

1

公共施設を「資産」ととらえ、維持管理や活用するための効率性を追求します。



視点 その2

2

長期的に健全な財政を維持するための仕組みを整備します。



視点 その3

3

市民・地域の状況の変化に対応します。

「公共施設マネジメント」を推進するために

公共施設マネジメントを推進するため、以下のような方策を検討していきます。



方策1

施設の総量を抑制・圧縮に向けた検討

- ▶ 新たに施設を整備する場合には、同程度の施設数、又は床面積を削減し、施設の総量を抑制します。既存の施設は、施設の配置状況、建物の老朽化の状況、利用状況等を踏まえ、複合化、機能転換、統廃合の可能性を検討します。



老朽化した施設を全て建て替えると…

- ✓ 建て替えの財源が不足
- ✓ 従前通りの維持管理コスト
- ✓ ニーズの変化に対応しにくい



発想を変えて、たとえば



老朽化した施設を複合化すると…

- ✓ 共有部分削減で床面積縮小
- ✓ 建設・維持管理コストの削減
- ✓ 施設内の可変性を確保して将来のニーズの変化に対応



方策2

施設のハード・ソフトの両面で、財政バランスの維持に向けた手法を検討

- ▶ ハード面では、施設の総量抑制・圧縮によるコスト削減、長寿命化による財政負担の平準化の方策を検討します。ソフト面では、民間活力の導入や管理運営方法の見直しを推進します。

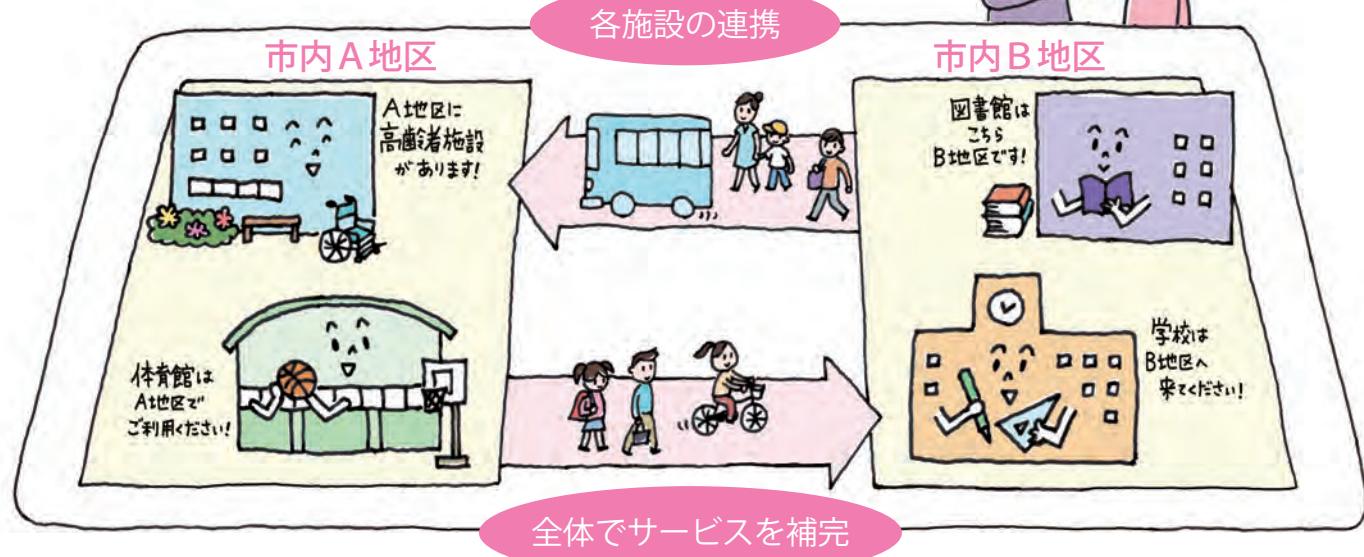




方策3

機能に着目した施設の有効活用

▶ 機能に着目して、すべての地域に均一の施設（建物）を整備するのではなく、各施設が連携、補完しあうことによって公共サービスが提供できる仕組みを検討します。



方策4

全庁を挙げた体制の整備

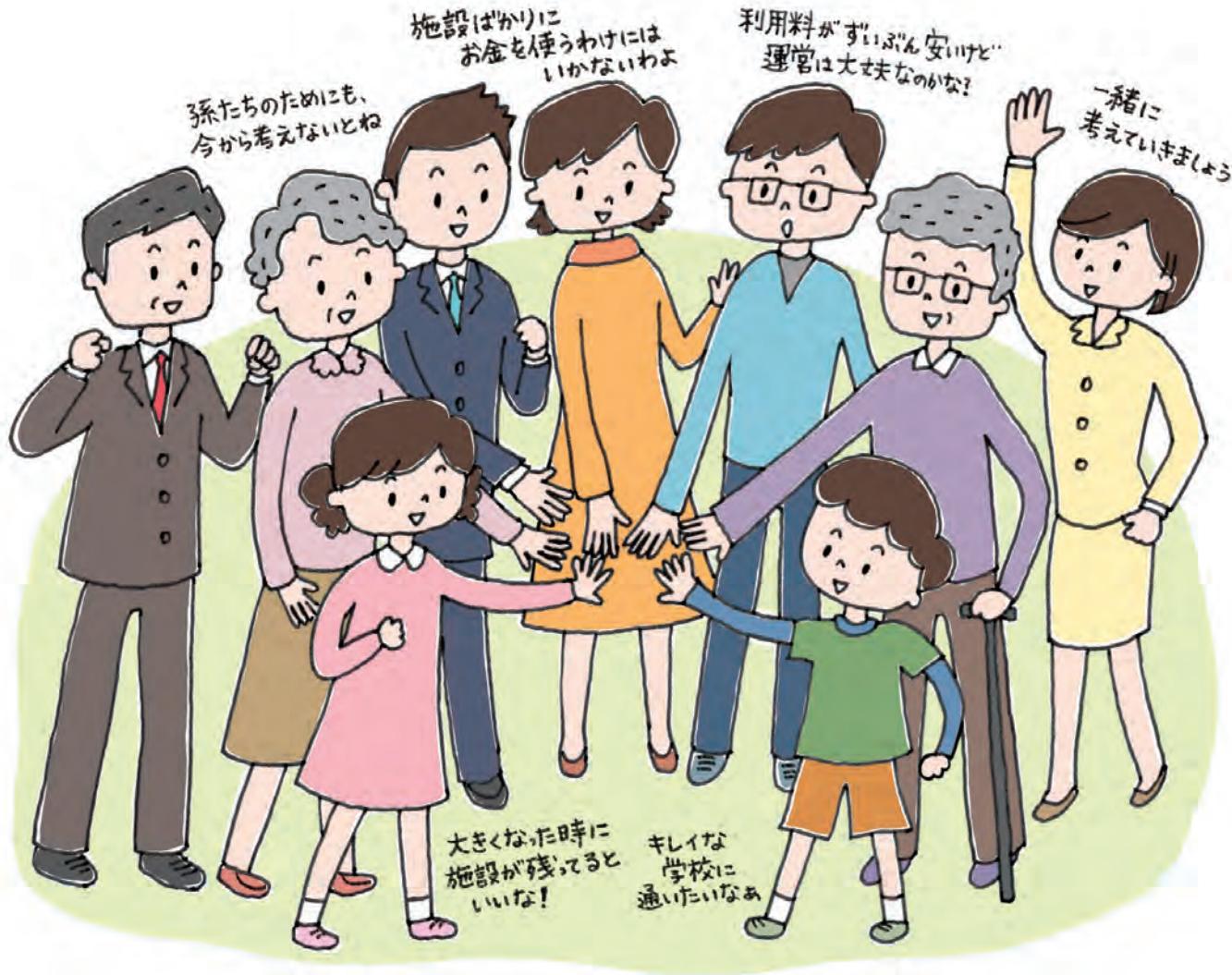
▶ 施設の情報を一元的に管理できる体制を整備し、個別の事業計画と全体の方針との調整を行います。



方策 5

課題を市民と共有し、 市民等との共通認識に基づく協働を推進

- ▶ 課題を市民と共有することで、協働して公共施設のマネジメントに取り組みます。
管理コストの現状を把握し、施設の目的や利用状況に応じた施設使用料のあり方について検討します。



府中市では、公共施設マネジメントに取り組み、
総合的かつ長期的視点により費用とサービスの最適化を進めてまいります

府中市では、公共施設マネジメントを推進するため、「府中市公共施設マネジメント白書」
および「府中市公共施設マネジメント基本方針」を策定しました。
これらの内容は、市のホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/shisei/kekaku/sisetsumanejimento/index.html>

公共施設マネジメントに関する問い合わせ先

府中市 行政管理部 建築施設課

〒183-8703 東京都府中市宮西町2丁目24番地

電話 (042)335-4358

E-mail kenchiku04@city.fuchu.tokyo.jp

